

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSWニュース 2月号

2016年2月4日発行

事務局:大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久1000番地

TEL:(098)866-5171

FAX:(098)864-1874

E-mail [t-matayosi@ns.omotokai.jp](mailto:t-matayosi@ns.omotokai.jp)

編集:友利真季子(中部病院)

## 『第48回公的扶助研究全国セミナー』参加報告

ハートライフ病院 望月祥子

平成27年11月27日～11月29日に、宜野湾市民会館・沖縄国際大学キャンパスで開催されました。全国の福祉事務所から多くの生活保護ケースワーカーが集まり、「戦後70年 今問われる 貧困・格差・不平等」をテーマに基調講演、新任ケースワーカー限定講座、研究講座、そして参加者がディスカッションする分科会など、3日間に渡りどれを聴講しようかと迷うほどの内容となっていました。お恥ずかしい話、生活保護ケースワーカーの全国大会が毎年開かれていることを全く知らず、実行委員である宜野湾市福祉事務所より分科会でのレポート報告を依頼されて初めて知ることとなったのです。

私は、1月28日の第6分科会で宜野湾市福祉事務所の玉城夏子ケースワーカーと玉木病院川平哲郎PSWと一緒にレポート発表、参加者とのディスカッションに参加させていただきました。与えられたテーマは、「医療と福祉の連携～医療と福祉はわかりあえるのか？協力し合える関係を目指して」となっており、発表内容のメインは“上手くいかなかった事例”を各自報告し、お互いの立場や考え方の理解し、共通点を見つけ出し、連携の在り方を考えるというものでした。発表者3名での事前打ち合わせや、コーディネーターとの協議を重ねた結果、ポジティブに連携を目指すためにも、事例に「上手くいかなかった」と明記しないこと、それぞれの職場・職種の現状について語ることを決めて発表をしました。「困っている」「動いてくれない」などのネガティブメッセージを前面に出さず、3時間ほどある参加者とのディスカッションを協力・連携できるものにしたと考えたからでした。参加者のほとんどが生活保護ケースワーカーです。病院に対する見方が変わった、病院のことをもっとよく知る必要があると思った、お互いについて知ることが大事だと思った、一緒に考えていくことが大切と感じた等の意見がある一方、MSWの対応への具体的な不満や苦言をいただく時間でもありました。私自身は、「もっとMSWは生活保護について勉強するべきで、ケースワーカーの実態について知るべき、そしてMSWとして自身の援助が倫理上正しいかを振り返るべきだ」と感じました。みなさんも、是非このセミナーの資料集を読んでみてください。機会があれば、参加してみてください。

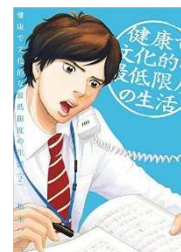
この分科会には『健康で文化的な最低限度の生活(下記の漫画)』を書いている漫画家の柏木ハルコさんが参加されていました。事前にめだかの放課後で話題となり読んでいたので純粋に嬉しく、お話しすることもできました。次回作にはMSWではなくPSWが登場する予定だそうで、ちょっと残念。「MSWも是非」と頼みましたよ。近々第3巻が刊行されます。福祉を扱った漫画の中では、かなりの逸品ですので、読んでみてください。

### CONTENTS

『第48回公的扶助研究全国セミナー』	
参加報告	…1～2
1月定例会報告	…2～3
定例会、めだかの学校等のお知らせ	…3～6
コラム	…6～7

最後にディスカッションで大いにバックアップしてくれたO病院・U病院のMSWに感謝！！

もう一つ最後に、宜野湾市福祉事務所の玉城夏子ケースワーカーが2月のめだかの学校に来てくれます。私たちの知らない生活保護の「なるほど」を楽しくお話ししてくれると思いますよ。



## 1月定例会報告

友愛会南部病院 阿嘉 誠

去った1月19日(火)18:00から開かれました定例会の参加報告をいたします。

「ソーシャルデータシステムについて」は、遅れて最後の方しか聞けていないため報告割愛します。

「how to 神経難病～介護保険編～」というテーマで講師に県立中部病院 神経内科副部長の金城正高先生をお招きして講義していただきました。神経難病と一言で言ってもたくさんの疾患があり、その中でも私達MSWも患者さんの中で出会うことの多いであろうパーキンソン病を取り上げていただき、制度のことから病状や診断方法など「なるほど…」とはじめて学ぶことも多く有意義な定例会でした。「人間は誰でも120歳になればドーパミンが20%程度になりパーキンソン病になる…」とのことで、確かに高齢の方は小刻み歩行で、振戦があつて…と、講義を受けながら頭の中でお笑いタレントの志村けんが老婆に扮した姿を思い浮かべていました(笑)…。金城先生の言葉で印象的なことのひとつに、「病気に患者さんを当てはめて支援しないように…」ということがありました。「この病気であればこうなるはず…」、等と患者さんを個別化せず決めつけて支援をしてしまうとソーシャルワーク展開の中で患者さんや家族との信頼関係構築に支障を来すことになると思います。疾患の知識習得は患者さんの立場を理解しようとする点で重要ですが、あらためて「非審判的態度」「個別化」の大切さを意識させられた場面でした。定例会へはなかなか参加できずにいましたが、会場が遠くとても寒い日の開催でしたが、パーキンソン病について理解を深めることができ一緒に参加した同僚とも出席して良かったと振り返っていたところです。協会会員の方の中に同じように定例会に参加できずにいる方がいましたら、是非業務調整していただき参加してみることをおすすめします。企画していただいた協会役員のみなさんありがとうございました。

## 1月定例会報告

中部協同病院 稲福恵子

### ソーシャルワークデータシステムについて 「How to 神経難病」

平成28年1月20日住宅型有料老人ホームはーとらいふにて1月の定例会が上記テーマで開催されました。

ソーシャルワークデータシステムについては、ハートライフ病院のMSW高澤信哉さんに「MANBO」について東京で行われた講習会の伝達講習をしていただきました。現在使用しているエクセル版のSWデータシステムでは、全国レベルでの統計作業ができないなどのデメリットがありましたが、MANBO導入によりさまざまな統計が可能となることわかりました。入力の詳細さや、コスト面で実際に導入に関しては協議を重ねて行く必要がありますが、必要な統計の内容がわかり、とても勉強になりました。

「How to 神経難病」では、県立中部病院神経内科副部長の金城正高先生によるパーキンソン病についての講義がおこなわれました。パーキンソン病はドーパミンが欠乏し、静止時振戦筋強剛(固縮) 無動(寡動) 姿勢反射障害等の症状がでる病気です。これらの症状が出る8~10年前にはドーパミンは減り始めており、前記の症状が出る前には嗅覚低下(消失) RBD(レム期行動異常症) 便秘 抑うつ等の症状が多く出ているとのことでした。

私たちが患者を支援する際、その方はなんらかの病気もかかっていますが、「病気ではなく、患者をみて考えてほしい」との先生の言葉が印象的でした。たしかに病気のこれからの進行を予測することは必要ですが、現状を見て、伝えて支援していきたいと感じました。

「百聞は一見にしかず 百聞は一考にしかず 百考は一行にしかず 百行は一課にしかず」・・・聞いたことはありましたが、先生の説明を聞き、言葉の意味を理解し、私たちができることを学びました。患者の生活を見ることが出来る立場として、これからもスムーズな援助・連携ができるよう、日々取り組んでいきたいと思いました。

### 平成28年1月運営委員会議事録

開催日時:2016(平成28)年1月18日(月)18:45~

出席者:樋口(司会)、當銘、望月、香村、安慶名、新垣、伊禮、奥平(記録)

場所:那覇市立病院

### 研修部:望月(ハートライフ病院)

2月の定例会

日時:2016(平成28)年2月17日(水)14:00~17:00

場所:調整中

内容:認知症サポートキャラバンについて

講師:福里 ひろみ氏

### めだかの放課後

日時:2016(平成28)年2月18日(木)19:00~21:00

場所:中頭病院 2階会議室(沖縄市知花6-25-5)

内容:共同研究について

事業の打ち合わせ

学会・研修会等の参加報告

その他



めだかの学校

2月については、調整中。



日 時: 2016(平成28)年3月22日(火)19:00~

場 所: ハートライフクリニック2階会議室(予定)

内 容: 生活保護制度について

講 師: 宜野湾市生活福祉課 玉城夏子 氏

昨年12月実施「在宅医療を希望する住民を地域資源に繋ぎ広げる多職種研修会」アンケートについて(報告)

#### 協議事項

##### 1. 九州協議会の研修部会からの依頼事項

次年度の九州大会(かごしま大会)から行われる予定のセミナー「会長の部屋(仮称)」のあり方について、各県から再確認、意見集約

時間は60分程度が望ましいのではないが、開催県のスタッフで実施することは困難ではないが、そのほか方法についての県協会としての意見を伝える。

##### 2. 平成28年度本会研修企画(案)作成に向けて

愛知県協会研修統括部長および新任養成委員長からヒアリング報告。

まずは初任者研修の体系化から

##### 3. その他(研修部の組織体制、事務局との調整、各プログラムの方法検討など)

#### 報告事項

・九州協議会研修部会(会長会合同): 今後中堅者研修の予定

#### 広報部: 當銘(代理)

MSWニュース・・・2月号担当: 県立中部病院

#### 社会活動部: 當銘(代理)

1月26日(火)中部地区医師会在宅医療連携ネットワーク第5回研修会へのスタッフ

#### 事務局: 當銘(大浜第一病院)

新規入会、退会なし。

保証人マニュアル(1冊500円)は20冊完売。追加発注中。購入希望者募る。

#### 会長より: 樋口(那覇市立病院)

SW4団体協議会・・・県総合福祉センターへ合同事務所の要望書提出。

#### その他

平成27年度第2回がんフォーラム テーマ「がんと就労」(那覇市立病院、那覇市の共催)

日 時: 2016(平成28)年2月20日(土)14:00~16:00

場 所: 沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

次回理事会: 2月15日(月)18:30~ 司会: 又吉 書記: 新城 連絡係: 伊禮

次々回理事会: 3月14日(月)18:30~

## 研修部 ～平成28年2月の予定～

### 定例会

平成28年2月17日(水)13:30～16:30

場所: 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 2階講堂  
(南風原町字新川118-1)

内容: 認知症サポートキャラバン

MSWのみなさん認知症についてきちんと理解できていますか。認知症サポート養成研修を行いますので、参加ください。

講師: 福里 ひろみ氏

### めだかの放課後

日時: 平成28年2月18日(木)19:00～21:00

場所: 中頭病院 2階会議室 (沖縄市知花6-25-5)

内容: 沖縄県ソーシャルワーカー学会発表予演会  
県委託事業の打ち合わせ  
平成28年度研修部研修計画案作り  
その他

### めだかの学校

2月と3月は当初予定していた内容(テーマ)が入れ替えとなっています。

日時: 平成28年2月9日(火)19:00～20:30

場所: 現在調整中!

内容: 事例検討「救急搬送を頻回に行う患者さんへの対応の難しさ(仮)」

事例提供者: 阿嘉禎貴氏(中部徳洲会病院)

スーパーバイザー: 安慶名真樹氏(大浜第二病院)

場所が決まっていないので、問い合わせください。

問い合わせ先: 沖縄赤十字病院 TEL836-5691 MSW長田しのぶ氏

日時: 平成28年3月22日(火)19:00～

場所: ハートライフクリニック2階会議室(予定)

内容: 生活保護制度について

講師: 宜野湾市役所生活福祉課 玉城夏子氏



## 1. MSW求職情報

沖縄大学 人文学部福祉文化学科 4年次 ・2016(平成28)年3月卒業予定

・平良 佐和乃

・資格:社会福祉士取得見込み

【問い合わせ先】

那覇市立病院 総合相談センター 樋口

電話:884 - 5111(内線:127)

## 2. MSW求人情報

那覇市立病院 (\* 詳細は、公式HPに掲載中)

募集:1人

雇用期間:平成27年12月1日～平成28年3月31日(更新可)

雇用形態:非常勤(フルタイム)

勤務時間:月～金 8:30～17:15

休日:土日祝祭日、年末年始、慰霊の日

資格:社会福祉士取得者

【問い合わせ先】

那覇市立病院 総合相談センター 樋口

電話:884 - 5111(内線:127)



## コラム ある日の相談室

～最後まで自分の意思を貫いたMさん～

担当:R・T

私がMSWとして働き始めたころ、COPDの末期の状態の入退院を繰り返していたMさん。なかなかの個性派(?)で入院中からいろんなハプニングを起こす方でしたが、ある日レストランから1本の電話。レストランから電話?と思いつつ電話にでると、「そちらに入院中のMさんという方が、こちらで食事をしていますが大丈夫でしょうか」と。なんとMさん車いすに酸素ポンベを乗せてタクシーでレストランへ行っていたのです。急いで酸素ポンベを準備してレストランへ向かうと、優雅に食事をしているMさん。どうも食べ終わるころにレストランの方に電話をさせたようなのです。帰院後医師や看護師に説教されたのは言うまでもなく。他にも在宅酸素を導入するにあたって、たばこを吸っていたMさんは火の扱いについて再三注意をされていました。しかし突然地域の関係機関より「酸素に引火して救急搬送された」と連絡がありました。急いで救急室へ行くと気道熱傷をしているはずのMさんは、私の顔を見るなり「爆発しなかったよ」とニヤリ。そんな破天荒なMさんでしたが、いよいよCOPDも終末期に入りADLの低下も著しく、いつ急変してもおかしくない状況。在宅を支えていた関係者もこれまでの本人の行いもあり「もう在宅は無理です。転院で考えてください」と悲鳴に近い状態。

しかしそれに納得しないのは本人です。絶対に転院はしない。自宅以外は考えないと絶対にこちらにも引かない状況。疎遠でありながらも唯一連絡がとれていた息子さんが、

1度だけ正月休みを使って沖縄に来ていただけることになったので、正月早々関係機関勢揃いでカンファレンス。もしかすると自宅でそのまま亡くなっているのを発見されるかもしれないというところまで話をしたが、本人の意思は変わらず。結果本人の熱意に負け(?)自宅へ退院。介護保険も施行したばかりで、まだまだ在宅の環境も整わず手探りの中(ヘルパーさんは恐怖の中だったと思います)、その後はほとんど入院することもなく最期は自宅のベッドで眠るように亡くなっていたようです。

カンファレンス後の退院の時、「あんたには感謝してるよ。今度遊びにおいで」と初めて優しい口調で話してきたMさん。当時はかなり振り回されることもあり自宅という選択がよかったのか悩みましたが、今思い返すと関係機関の理解・協力も得られたことで最後までMさんらしい生き方を貫きとおせたのではないかなと感じています。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ  
<http://www.msw-oaswhs.jp/>

